

2025年度 産学公連携一覧

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	---------------------------	--------------	------

<美術工芸学科>

1	令和7年第15回 上賀茂神社 アートプロジェクト	2025/6/1- 2025/7/31	上賀茂アートプロジェ クト実行委員会	美術工芸学科	池田光弘 岩泉慧 酒井稚恵 松平莉奈	世界文化遺産・上賀茂神社の境内（客殿、参集殿、馬場殿など）を舞台に実施される夏のアートイベント。子どもたちや地域の方々に文化芸術を広く体験してもらうことを目的としており、2025年は15回目の開催となった。本学からは、学部・大学院生あわせて10名による作品の展示とワークショップを実施。 今年は「異界」をテーマに、目に見えない世界を絵画・染織・写真・インスタレーションなどさまざまな方法で表現した展示が注目された。また、本学院生が指導を行った柊野小学校3年生のみなさんによる、夏の賀茂野菜や風物詩を模した行灯が、馬場殿や参道を鮮やかに彩った。	10	なし
2	画材文具フェスティバル	2025/5/23- 9/27	ホルベイン画材株式会 社	美術工芸学科	岩泉 慧 森本 玄	京都芸術大学美術工芸学科は画材メーカー大手のホルベイン画材株式会社を始めとする各画材メーカーと画材の見本市である「画材文具フェスティバル」を、美術工芸学科の社会実装プログラムの一環として本学ギャラリー・オーブにて、2025年9月26,27日に開催。普段学生が目にし、使用する画材をより広く、深く知ってもらいたいという画材メーカーと美術工芸学科、双方の思いが一致し、この学科社会実装プログラムが計画、実践された。本プログラムに参加することで、使用者としてだけでなく、画材メーカーの視点に立ち、来客者に対し画材の説明をすること等をとおして理解が深まるとともに、自身の技法材料に関する知見を多く得ることができた。また、普段知り合う機会のないメーカーの社員さんと交流することは自身の制作の学びになるだけでなく、社会経験を得ることのできる最も身近な機会でもあった。	41	なし
3	2025年度ロームシアター京 都自主事業「プレイ！シア ター in summer 2025」	2025/8/16ー 8/17	ロームシアター京都 京都市	美術工芸学科	矢津 吉隆	ロームシアター京都で開催された「プレイ！シアター in summer オープンデイ」の「わくわくワークショップ&マルシェ」にて、アートプロデュースの学生とアーティストユニット副産物産店がコラボしてアートの副産物の詰め合わせワークショップを開催。多種多様なアートの廃材から好きな色や形、素材を選び出し袋のなかでコラージュすることで、自分だけの詰め合わせを制作。多くの親子連れで賑わった。	6	なし
4	ARTCOM2024	2025/7/12 - 7/24	けいはんな記念公園	美術工芸学科	後藤 雅樹	総合造形コース3・4年生を中心とした作品展。けいはんな記念公園の広大な空間を舞台に、自然や環境との関係性を読み取りながら「場所性」を意識した作品制作に挑みます。屋外・屋内の展示を通じ、多くの来場者に鑑賞していただける実践的な機会であり、卒業制作展に次ぐ本コースの重要な展覧会として位置づけられています。	29	あり
					合計		86	

<キャラクターデザイン学科>

1	ツナガル・ヒロガル アー ト∞リンクコンテスト～ アートでつながる夢世界～ の応募作品を展示するた めのメタバース空間)の制作	2025/5ー 2025/8	社会福祉法人ふらっと	キャラクターデザイ ン学科	川北 輝	本事業は、島根県松江市の社会福祉法人 ふらっとが主催する「第1回 ツナガル・ヒロガル アート∞リンクコンテスト」（2025年2月1日～3月20日開催）において、応募のあった作品を展示するため、メタバース上に美術館を新たに構築したプロジェクトである。美術館名は「アート∞リンク ミュージアム」である。物理的な制約を越え、誰もがオンライン上で作品を鑑賞・交流できる環境を整えることで、アートでつながる夢世界というコンテストのテーマを継承・発展させた。 本美術館はVRChatアプリ内で体験可能であり、ワールド内で「artlink」や「artlink museum」と検索することでワールドに入ることができる。VR機器のMeta Questにも対応している。	5	なし
2	こども科学博 2025 企画・ 運営	2025/4ー 2025/8	株式会社NHKエデュ ケーショナル	キャラクターデザイ ン学科	植木 豊	8月1～3日開催「こども科学博2025」（主催・稲盛財団）において、京都大学iPS細胞研究所の展示と連携し、「生み出せ！キャラ・で・工房」を出展した。来場したこどもたちはiPS細胞の分化をゲーム形式で学んだ後、学生のサポートのもと細胞を題材としたキャラクターデザインに挑戦し、3日間で約1000点の作品が創出された。最先端生命科学と芸術教育を接続し、科学理解を創造的表現へ転換する芸術大学ならではの教育実践となった。	13	あり

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
3	KYOTO駅ナカアートプロジェクト2025	2025/6ー 2026/2	京都市交通局	キャラクターデザイン学科	太木 裕子	京都の重要な交通インフラである地下鉄のイメージアップと活性化を図るとともに、京都の文化芸術の発信を目的として、「大学のまち京都」、「文化芸術都市京都」で学ぶ学生たちの個性豊かな感性で創作したアート作品で地下鉄駅を彩った。今回で14回目を迎え、今年度は、過去最多の13大学の学生が「交わる、彩る、息づく」を共通テーマに、作品を制作した。	12	あり
4	治験の導入動画/冊子、同意説明文書への挿入イラスト(漫画)制作プロジェクト	2025/4ー 2025/12	アストラゼネカ株式会社	キャラクターデザイン学科	井本 圭祐 植木 豊	専門用語が多く理解が難しい「治験」をテーマに、マンガやアニメーションなどの視覚表現を用いて医療情報を分かりやすく伝えることを目的としたプロジェクト。学生が医療従事者や臨床開発担当者の助言を受けながら、治験導入動画や啓発冊子を制作し、患者や家族の不安軽減と理解促進を図った。芸術表現を医療コミュニケーションに応用し、社会課題解決へ接続する新しい科学・医療伝達モデルの実践的試みである。	23	なし
5	京都府トラック協会プロジェクト	2025/10/1ー 2026/3/31	近畿運輸局 京都府トラック協会	キャラクターデザイン学科	鴨志田由貴、 井本 圭祐 矢上 裕 赤津 豊	ドライバー不足が課題の運送業界と、スキマ時間を活かして働きたい30～50代女性をマッチングする、京都府トラック協会と京都芸術大学の産学連携プロジェクト。学生チームが中心となり、普通免許で運転できる「軽トラック配送」という柔軟な働き方を提案する4コマ漫画を制作。等身大の主婦が軽トラ配送に挑戦する親しみやすいストーリーを通じて、業界のネガティブなイメージを刷新。完成した漫画はSNSやKyoto LifeなどのWebメディア、リアルイベントと連動して発信され、女性の新たな人材確保を目指す。	18	あり
					合計		71	

<マンガ学科>

1	株式会社welzo 社内報マンガ制作作	2025/1/8ー 2025/6/1	i-NNO株式会社	マンガ学科	井本 圭祐	本プロジェクトは、株式会社welzoの社内広報を目的とし、学生が同社の企業史や最新の取り組みを取材してPRマンガを制作した。制作にあたり、学生は代表取締役社長の金尾佳文氏の歩みや、コロナ禍での挑戦についてヒアリングを行った。また、福岡県福岡市今津にある「welzo研究農場」を訪れ、九州大学との産学連携によるスマート農業や、環境負荷を低減する「プラズマグリーン農業」の実証実験についても取材を重ねた。企業の理念と最先端の技術を、親しみやすいストーリー形式で可視化した。	2	なし
2	甲賀市地方創生マンガプロジェクト	2025/5ー 2025/11	i-NNO株式会社	マンガ学科	井本 圭祐	本プロジェクトは、滋賀県甲賀市土山町鮎河地区の地方創生を目的とし、地域の魅力を発信するPRマンガを制作した。学生は現地を取材し、鮎河地区だけで栽培されている滋賀県の伝統野菜「鮎河菜（あいがな）」に注目。マンガ内では、鮎河菜が「幻の野菜」と呼ばれる理由である鮮度保持の難しさや、菜の花に似つつも苦みが少なく甘みがあるといった特徴を分かりやすく紹介し、同地区の名所である「鮎河の千本桜」などの観光資源も盛り込み、地域の「お宝」を可視化した広報コンテンツとして制作した。	4	なし
					合計		6	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	---------------------------	--------------	------

<情報デザイン学科>

1	農林水産省 NIPPON FOOD SHIFT 連携プロジェクト	2025/6ー2026/1	農林水産省 / 近畿農政局	情報デザイン学科	服部 滋樹 村川 晃一郎	農林水産省は「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」をスローガンとする国民運動を展開している。本プロジェクトはその取り組みの一環として、デザインを学ぶZ世代の学生が「食品ロス」や「食料自給率」など様々な日本の「食」に関する問題・課題を探究し、解決のアイデアを創出するPBL型授業として実施。チームに分かれ様々な企業や組織に対し、フィールドリサーチやインタビューを行い、アイデアを生むところからアウトプットの制作までを一気通貫して取り組んだ。その成果は、大阪で開催されたニッポンフードシフトのイベントにて発表。学生自身のプレゼンテーションと作品パネルでで紹介した。	35	あり
2	無印良品でのグループ展	2026/1/22ー2026/1/25	株式会社良品計画	情報デザイン学科	服部 滋樹 村川晃一郎	農林水産省「NIPPON FOOD SHIFT」との連携プロジェクトの一環として、学生が制作した作品の発表の場を、日本の暮らしや食を丁寧に考え続けておられる無印良品様にご提供いただいた。本取り組みでは、学生作品の展示にとどまらず、学生自身によるプレゼンテーションも実施し、株式会社良品計画 食品部の部長やマネージャーの方々から直接フィードバックをいただくプログラムを開催した。 さらに、会場の提供に加え、広報面でもご協力をいただいたことで、多くの方々にご来場いただく機会となった。また、株式会社良品計画様との良好な関係を構築できたことにより、今後の学科イベント等において継続的に活用可能な什器を、無償でご提供いただくに至った。	35	あり
3	株式会社サンマルクホールディングスプロジェクト	2024/9/1ー2024/12	株式会社サンマルクホールディングス	情報デザイン学科	山下 光恵	株式会社サンマルクホールディングスの本社京都移転を機に、企業理念の浸透を目的としたクリエイティブ制作に取り組んだ。まず学内コンペを実施し、学生が独自の視点で企業理念を読み解いたイラストレーションを展開。選抜された学生が、理念を視覚的に伝えるインフォグラフィックスのデザインを実制作として担当した。さらに、動画制作スキルを持つ学生チームにより、理念を象徴するプロモーション動画の制作も行った。本プロジェクトを通じ、企業マインドを社会へ発信する具体的なアウトプットを創出するとともに、学生がプロの現場で実践的な経験を積む貴重な機会となった。	6	なし
4	株式会社都松庵 リブランディングプロジェクト	2025/4/16ー2025/5/301	株式会社 都松庵	情報デザイン学科	見増勇介 サノワタル	SANOWATARU DESIGN OFFICE INC.のサノワタル氏を講師に迎え、京都のあんこ菓子専門店「(株)都松庵」の実商品を対象としたリニューアル提案。 本授業はグループワーク形式で進行し、単なるパッケージデザインにとどまらず、店頭陳列やSNS運用など「売り方・魅せ方」までを含めたトータルブランディングを考察。約1.5ヶ月のプログラム中、第2週と最終週にはクライアントが来校。直接ヒアリングを行うリサーチから、プロの視点を取り入れたブラッシュアップ、そして実社会同様の最終プレゼンテーションまでを行う実践的な課題を実施した。	31	あり
5	ひらかたパーク × 京都芸術大学 産学連携プロジェクト	2025/11/26ー2026/1/14	株式会社京阪レジャーサービス	情報デザイン学科	齊藤 信和 山下 光恵 宮下 仁志	ひらかたパークとの連携による商品企画を通じて、実在するテーマパークの魅力を再発見し、新たな価値を創出する力を養う実践型授業。うち2名の企画が採用され、2026年中に商品として販売されることが決定している。	32	あり
6	株式会社 ABC Cooking Studio_Instagramを使用したSNSプロモーション企画	2025/9/24ー2025/11/12	株式会社 ABC Cooking Studio	情報デザイン学科	山下 光恵	ABCクッキングスタジオと連携し、「Instagramを活用したSNSプロモーション企画」に取り組む産学連携プロジェクトを開始。 1限目では学科教員による企画とモックアップ制作の講義、2限目にABC様（福岡様・佐野様）より企業説明と課題提示をオンラインで実施。 課題は「サラダボウルを通じたABCの新しい楽しみ方の提案」で、ネーミングを含めたBtoC展開の企画を求められた。	32	あり
7	電通「人権アートプロジェクト」	2025/9/22ー2025/12/10	株式会社電通	情報デザイン学科	渡邊 有希	株式会社電通と連携し、「電通人権アートプロジェクト」の一環として人権ポスター制作に取り組む実践型授業を実施。電通の現役クリエイターを講師に迎え、「部落差別の解消」「性的少数者の人権」「多文化共生社会」の3テーマをもとに、社会課題を視覚化する表現を探究した。制作過程では指導・講評を受けながらブラッシュアップを重ね、最終的に人権週間に学内展示を行うとともに、各地の展示会やポスター貸し出しを通じて社会への発信と啓発につなげる。	8	なし
					合計		179	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 * 200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	----------------------------	--------------	------

<プロダクトデザイン学科>

1	大創産業産学連携授業	2025/4/1－ 2025/8/8	株式会社 大創産業 【DAISO】	プロダクトデザイン 学科	北條 崇	2025年前期の授業内で、ダイソーブランドの商品企画提案を行い商品化を目指す．8月頭に社長プレゼンを大学内で行う．	16	あり
2	エレコム産学連携プロジェクト	2025/8/9－ 2026/2/13	エレコム株式会社 （商 品開発部デザイン課）	プロダクトデザイン 学科	時岡 英互	「新たなアウトドア家電・雑貨」をテーマに、エレコムのアウトドア商品ブランドNEST OUTの開発手法をベースに企業の第一線のプロと現場から学び、新コンセプトデザイン提案に繋げる。 -リサーチフェイズーアウトドア市場の製品リサーチから、実際のアウトドアキャンプを体験するまでリサーチすることで、ユーザーの潜在ニーズや関連用品に関する気づきを得る -UX新価値提案フェイズー新たなユーザー開拓に繋がる企画コンセプトを創出し、使用シーンと機能、CMFまでビジュアル化する -プロダクト提案フェイズー新たな企画コンセプトを実現するためのプロダクトデザイン提案として、モデルやCG、プロトタイプに具現化する ※最終的には、先様経営トップに対して個々の学生によるプレゼンテーションを実施する	20	あり
3	ショップボット部	2025.4.23－ 2025.11.29	株式会社ジャクエツ	プロダクトデザイン 学科	北條 崇	ショップボット部は木材加工用CNCルーター「ショップボット」を活用し、次世代の家具や雑貨を模索するプロジェクト。今年度は、遊具のトップメーカーである株式会社ジャクエツと連携。同社の製造工程で発生するHDPE樹脂（高密度ポリエチレン）の端材や再生材に、針葉樹合板などを組み合わせ、「教具（ブロックや玩具）」をテーマとした新しいプロダクトのデザイン・試作を行った。	7	なし
4	KUA×ACTUS 2025	2025/9/20- 2026/2/28	株式会社アクタス	プロダクトデザイン 学科	大江 孝明	【暮らしの時間を大切に過ごすためのインテリアプロダクト】 眠っている時間を除けば、我々が家で過ごし、プライベートな空間で暮らしを送る時間は、働いている時間よりも短い。そんな暮らしの時間を大切に過ごすと為に、インテリアプロダクトにできることは一体何だろうか？暮らしの時間とは？大切に過ごすとは？ということをリサーチを基に定義し、新たなインテリアプロダクトの可能性を、具現化したデザインで提案した。	14	あり
5	こども と おとながつかう家具	2025/9/10- 2026/3/31	創作工房一志家具製作 所	プロダクトデザイン 学科	大江 孝明	「こども と おとながつかう家具」をテーマに、本学プロダクトデザイン学科がリサーチと試作を行い、家具のデザインを提案。一志家具製作所がそのデザインを受けて、実寸スケールでの家具の製作を実施する。その後、販売を目的としたプロモーションを実施する。	6	なし
6	ソニーグループとの産学連携プロジェクト	2025/4－ 2025/8	ソニーグループ株式会 社	プロダクトデザイン 学科	風間 重之	産学公連携プロジェクトの1つとして、企業の第一線のプロと現場から学生が新コンセプトデザイン提案について学ぶ授業として実施。 ・テーマ：クラウド時代の「窓」を考える	17	あり
7	ウエディング向けドリーム キャンドル デザイン制作 PJ	2025/3/1- 2025/10/31	田中務補商店	プロダクトデザイン 学科	風間 重之	ウエディング向け市場への新規参入ドリームキャンドル デザインコンセプト制作	4	なし
					合計		84	

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
--------	------	----	------	--------	-----	---------------------------	--------------	------

<空間演出デザイン学科>

1	京都ブランド「SOU・SOU」コラボレーションプロジェクト	2025/4/ー 2025/7	若林株式会社/SOU・SOU	空間演出デザイン学科	伊藤 正浩 若林 剛之	地域アイデンティティを持つローカル・ブランドとの連携によるファッション・ブランドを制作する。SOU・SOUとの協働を続け、伝統産業を残すには多大な努力と魅力的なデザインが必要なことを学び、社会に発信する。京都ブランド「SOU・SOU」と弥生時代に生まれた貫頭衣をベースに三重県の伝統工芸品である伊勢木綿を使用した服の企画・デザイン・制作を行い、販売・接客までを行い、企画から販売までのプロセスを学んだ。	15	あり
2	Limited shop by KIWI seminar “Hellow Yellow” @藤井大丸	2025/4/1- 2025/8	株式会社 藤井大丸	空間演出デザイン学科	藤井 良平	京都の百貨店「藤井大丸」と京都のファッションブランド「KIWI」との連携により、期間限定のショップを展開。商品企画・制作・販売・接客までを行った。テーマを「Hellow Yellow」とし、簡単に消費されない、愛着の持てるものづくりをめざし、独自のアイデアでの商品制作を実践した。また、再生可能素材や廃棄された日常品を再利用した空間づくりなどを行いサスティナビリティにも触れた展示となった。	23	あり
3	ソーシャルイベント - 地域交流を通じて暮らしを見つめ直す	2025/4/1ー 2025/8	亀岡市文化芸術課	空間演出デザイン学科	安川 雄基	社会の課題解決を実践するために、地域の自治体と連携し、地域イベントを企画・制作・運営する授業。亀岡市のフィールドワーク、インタビューなどのリサーチをもとに、亀岡市内の公共の場でイベントを実施。 今年度は、「でいぐでいぐかめおか」というイベントをKIRI CAFEで開催。亀岡の美味しい野菜、きれいな水、美しい自然は「地」の魅力にあると考え、亀岡のこどもたちと「地」に触れるイベントをKIRI CAFEにて開催した。若者が出ていってしまっ て戻ってこないという課題から、こどもたちが亀岡の魅力を再認識するために、土や植物を使ったワークショップやイベント 限定メニューを提供した。	24	あり
合計							62	

<環境デザイン学科>

1	株式会社長栄とのワンルームマンションのリフォーム案の提案(Stamp!)30&31期	2025/4/1ー 2026/3/31	株式会社長栄	環境デザイン学科	木村 淳子	学生リフォームプロジェクト【Stamp!-スタンプ-】は賃貸マンション管理会社である株式会社長栄との産学連携プロジェクトです。学生が「自分たちが住みたいと思う部屋」のリフォームプランを考え、実際に施工し、市場へ出すという企画。	10	なし
2	カラオケ店（ジャンカラ）新規出店店舗のデザイン制作プロジェクト	2025/10ー 2026/1	株式会社TOAI	環境デザイン学科	小野 暁彦 木村 俊介	今年度は対象学科を広げ、全学科を対象とした募集を行い、ジャンカラの新規出店店舗の①店舗コンセプト、②内装デザイン、③コンセプトルーム、④看板などのデザインを行う。指導については、去年から引き続き環境デザイン学科の教員で担当。TOAIのジャンカラのプレゼンテーションから、始まり、約2週間おきにエスキースを行い、アイデアをブラッシュアップさせていった。グループごとに分けて、学生同士交流を増やしたり、中間発表でもTOAIから講評を頂き、案の方向性がブレないように進めた。講評後は打ち上げをTOAIさんに企画していただき、大学外での交流する機会を学生、教員、TOAIが共に行うことができた。	38	なし
合計							48	

<映画学科>

1	新北白川派映画プロジェクトの設立準備	2023/9ー 2028/3/31	静岡県立大学	映画学科	山本 起也	2023年、尾池元学長が学長を務める静岡県立大学と共同で、学生や市民参加型の映画制作を静岡で行うことが決定。それを映画学科伝統の「北白川派プロジェクト」と紐付けする形で、学生、市民一体となって準備を進める。 2026年1月21日から2月22日まで、静岡、北海道標茶町、東京で映画のロケを実施。在学生8名、卒業生9名が参加。プロと学科OB、学生の三者を結ぶ、これまでにない形態の「新」北白川派プロジェクトが実現した。 2027年の映画の公開に向け、更に市民やOBとの連携を深め、活動を継続する予定。	8	なし
合計							8	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	---------------------------	--------------	------

< 舞台芸術学科 >

1	京都府警被害者等支援連携訓練	2025/10/14－ 2025/10/30	京都府警察本部警務課	舞台芸術学科	平井 愛子	京都府警察犯罪被害者支援室が実施した「死傷者多数事案における被害者等支援連携訓練」のロールプレイにおいて学生が被害者家族を演じた。	9	なし
2	カスチョールの会 年末コンサート	2025/9－ 2025/12/27	カスチョールの会	舞台芸術学科	平井 愛子	参加イベント：カスチョールの会 年末コンサート「ロシアのおとぎ話～めぐる季節の贈り物～」 日時：2025年12月27日（土）13：30～場所：ウィングス京都イベントホール 上記コンサートの中で10名の学生がオペラ「森は生きている」（抜粋）をモチーフに歌と演技を披露した。	8	なし
3	京都府警察本部 広域緊急援助隊合同訓練	2026/1/21－ 2026/1/28	京都府警察本部警備部 警備第一課	舞台芸術学科	平井 愛子	京都府警察本部による広域緊急援助隊合同訓練における「地震による死傷者多数事案」を想定したロールプレイの中で被害者家族を演じた。	4	なし
					合計		21	

< 文芸表現学科 >

文芸表現学科は0件								
-----------	--	--	--	--	--	--	--	--

< アートプロデュース学科 >

1	高槻城公園劇術文化劇場 オープンデー ふらっと♪TAT」における企画運営	2025/8/5－ 2025/9/30	公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団	アートプロデュース学科	蔭山 陽太	（公財）高槻市文化スポーツ振興事業団主催にて、多くの方に劇場や芸術文化を身近に感じてもらうことを目的として開催。「高槻城公園芸術文化劇場」南館（2023年新設）全体を使用しホール見学会や無料コンサート、ワークショップなど多数プログラムを実施。学生視点のプログラムも企画することで、同世代である若者などより一層幅広い世代に劇場の魅力を発信した。	22	あり
					合計		22	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 * 200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	----------------------------	--------------	------

< こども芸術学科 >

1	知育玩具の提案	2025/4/1－ 2025/3/31	株式会社ADC	こども芸術学科	廣瀬 敏史	こども芸術学科3回生9名が、愛知県の遊戯機器メーカーと協働し、1年間かけて知育玩具を開発した。9名のうち2名の案が今年度は採択され、商品化に向けて動き出した。	9	あり
2	おにクルすなバ部～	2025/4－ 2026/1	茨木市立こども支援センター	こども芸術学科	彦坂 敏昭	茨木市文化・子育て複合施設 おにクルに於いて、乳幼児とその保護者を対象としたワークショップを実施。毎回のテーマを「〇〇と砂」とし、「砂」を軸に組み合わせる素材を変えながら継続的に開催した（2025年度は合計8回の実施）。	7	なし
3	「ARTISTS’ FAIR KYOTO 2026」学生向け鑑賞ツアー・ワークショップ企画・運営	2026/2－ 2026/2	ARTISTS' FAIR KYOTO 2026	美術工芸学科 こども芸術学科	笹口 数 彦坂 敏昭	ARTISTS' FAIR KYOTO 2026の期間中、小・中学生を対象としたワークショップ「マイナビアートクラス」「マイナビアートチョイス」を実施。	3	なし
4	高校生のアイデア×地域の文化遺産・福祉作業所の技術×芸大生のデザイン ～高校生が軸となり、新たな連携で地域がつながるキッカケを創り出す～	2025/8－ 2025/12	滋賀県立大津商業高等学校	こども芸術学科	北後 佐知子	大津商業高校には高校版DMO観光ビジネスプロジェクトの一環として「観光」をテーマに滋賀県の地域活性化を測ることを目的とした授業がある。その中で高校生が、①三井寺と連携したイベントの企画・実施による地域活性化②障害福祉サービス事業所れもん会社と連携し滋賀の魅力発信と観光客の誘客に繋がるように商品開発を行った。イベントや商品の魅力をより多くの人に届けるため、滋賀県出身のこども芸術学科の学生3名（①2名②1名）がデザインの力を発揮。プロジェクトを通して地域に根ざしながら地域を超える、新たな繋がりが創られた。	3	なし
合計							22	

< 歴史遺産学科 >

1	京都市修学院荘管理・活用プロジェクト	2025/9/25- 2025/11/13	京都市（都市計画局景観部風致保全課）	歴史遺産学科	仲 隆裕	京都市左京区修学院の京都市歴史的風土特別保存地区内に位置する旧邸の緑地管理。邸内には豊かな自然を生かした庭園があるが一部は毀損している。危険木等が発生していないかの見回り監視・落葉落枝の清掃等簡易な維持管理作業を行う。また、今後の公開活用を目指し、庭園の文化財的価値調査に基づき毀損箇所の保存修復に取り組んでいる。	11	あり
2	歴史遺産学研究会日本庭園研究部会（作庭）	2025/10/1- 2025/11/23	善福寺	歴史遺産学科	仲 隆裕	臨済宗東福寺派の善福寺には、平安時代の地蔵菩薩坐像（京都府指定有形文化財）が祀られている。この地蔵菩薩の保存修理完成と本堂の改修整備に伴い、本堂前の庭園の保存修復を行うとともに、地蔵菩薩が人々に与えてくれる十の福をテーマとした新たな庭園を作庭することとなった。歴史遺産学科日本庭園研究会が設計に関与し、文化財庭園保存技術者による庭園施工にも参加する機会となった。	4	なし
合計							15	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	---------------------------	--------------	------

<芸術教養センター>

1	島根PJ2025	2025/8/1－ 2025/11/30	松江・境港・隠岐観光振興協議会	芸術教養センター	森岡 厚次	フィールドワーク、リサーチと提案をベースにした活動を行う地域創生プロジェクト。島根県松江市島根半島・隠岐諸島・知夫里島を訪れ、リサーチを行い、地域の活性化を促進する。 ・地域を繋ぐキャラクターをデザインする。・学園祭にてアンテナショップを立ち上げ、物産展を行う・ノベルティグッズの作成（キャラクターシール）・周遊冊子の作成（隠岐クエスト）昨年に追記して再編集	4	なし
3	松江水燈路PJ2025	2025/5/1－ 2024/10/31	一般社団法人松江観光協会、松江市観光部観光振興課	芸術教養センター	森岡 厚次	本件は 松江市観光部観光振興課と本学の産学連携事業。島根県松江市の秋のイベント「松江水燈路」に合わせ①イベント実施期間中、松江城内の会場にて、展示するライトアップモニュメント（アカリチドリねぶた）を学内で制作し現地で展示。また展示什器のデザイン及び制作も行った。②地域交流イベントを考え、実施する（参加者のご希望により、小犬ねぶた、子猫ねぶた、その他昆虫や鳥などの制作ワークショップ）の一連を行う地域活性化プロジェクト。	6	なし
4	南座看板制作プロジェクト（前期）	2025/4－ 2025/7	南座	芸術教養センター	丸井 栄二 秋山 みちか	400年という伝統を持つ南座の正面入り口に掲げられる一文字看板のデザインを作成し、そのデザインを手描き看板にして納品する。2024年度後期は「初笑い! 松竹新喜劇―新春お年玉公演」の演目について看板を作成した。単にデザインを考えるだけでなく、学生は京都市景観条例についても学び、実際の社会で使用できるデザインについての見地も広げた。京都市景観条例という厳しい条件の中で新鮮なデザインを考え、そのデザインを10mを超えるサ イズで手描きで再現するという2つの大きなハードルを学生は超えることができた。	32	あり
5	南座看板制作プロジェクト（後期）	2025/9－ 2026/1	南座	芸術教養センター	丸井 栄二 藤部 恭代	400年という伝統を持つ南座の正面入り口に掲げられる一文字看板のデザインを作成し、そのデザインを手描き看板にして納品する。2024年度後期は「初笑い! 松竹新喜劇―新春お年玉公演」の演目について看板を作成した。単にデザインを考えるだけでなく、学生は京都市景観条例についても学び、実際の社会で使用できるデザインについての見地も広げた。京都市景観条例という厳しい条件の中で新鮮なデザインを考え、そのデザインを10mを超えるサ イズで手描きで再現するという2つの大きなハードルを学生は超えることができた。	35	あり
6	栗田大燈呂プロジェクト	2025/4/1－ 2026/3/31	栗田大燈呂実行委員会	芸術教養センター	山田 純 森岡 厚次	京都東山にある栗田神社。天保3年以前に途絶えたといわれる栗田神社の「夜渡り神事」を、180年ぶりにアートで復活させ今回で17年目となる。単なる制作だけではなく、神社や周辺地域の歴史・伝承等を調査、京都の歴史・芸術・文化を掘り下げ、そこから見えてくる日本人の感性を捉えなおし、モノづくりとはどういう事なのかを考察します。京都の、日本の祭りを再発見し、モノづくりにおける「モノがたり」が如何に必要であるかを経験、より一歩進んだグループワークを実施した。ホテル東山に展示する干支の中燈呂「午（うま）」と「奇稻田比賣命」、「出世恵美須」大燈呂2基の制作を行った。また夏の期間に白川夏祭りにおいて、栗田祭りに向けての子供たちワークショップを開催した。。	30	あり
7	フコクアトリウム空間プロデュースプロジェクト	2025/4/1－ 2026/3/31	富国生命保険相互会社	芸術教養センター	山内 庸資 森 太三 森岡 厚次	大阪駅前にある大阪富国生命ビルの地下1階アトリウム「フコク生命の森」の空間演出をおこなうプロジェクト。 夏季は巨大壁画『想い出ライト』を制作。何気ない日常の中で交わす言葉や、誰かとの記憶を思い返し、道ゆく人々の心にぬくもりを届けることを目指した。 2025年8月2日（土）～31日（日）まで展示、2025年8月2日（土）3日(日)公開制作を実施 冬季は昨年に続き「UMEDA MEETS HEART2025」へ出展する立体作品「支えあい」を制作。 一本一本の木材が重なり合い、静かに呼吸するように立ち上がる木組みの構造。 その姿には、私たちの日々の暮らしの中にある「ささやかな思いやり」や、「見えないつながり」が映し出されている。 2025年11月30日(日)~12月25日(木)展示	36	あり

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
8	台湾国際交流プロジェクト 2025-26	2025/9/19－ 2026/2/2	都市藝術工作室 Urban ART Studio（台湾）	芸術教養センター	森岡 厚次	このプロジェクトは、海を越えて台湾の地で合宿を行い、現地にて約12日間かけて水に浮かぶ巨大な光のオブジェを制作する海外滞在型プロジェクト。後期授業での活動では、大学にてプロジェクトメンバー同士コミュニケーションを図りながら、事前打ち合わせや材料の準備、小さなパーツの制作を行い、現地での制作に備える。毎年、旧正月に開催される台南市のランタンフェスティバル「2026月津港燈節」に参加。本学としては7回目の参加となり、昨年から引き続きの参加となった。多くのアーティストが参加し、作品を通して芸術や文化交流を図るとともに、国境を越えた絆を深めることが出来るこのプロジェクト。立体造形にしっかりと取組みながら、海外の斬新なアイデアに触れ、キャリアアップにもつながるこれまでにない制作系プロジェクト。	14	あり
9	瓜生山イルミネーション	2025/9/23－ 2026/1/20	蒼山会	芸術教養センター	森岡 厚次 原田 悠輔	本プロジェクトは、京都芸術大学の入口となる人間館の柱や大階段付近を灯りで演出し、学生や地域の方々、また白川通を行き交う人たちにイルミネーションを楽しんでいただくことを目的としている。2005年から始まり、2025年度で20年目を迎え（未実装の年度もあったため、今回で18回目の開催となる）。 今年のタイトル『The Stage of KILIG』は、タガログ語で「蝶が舞うようなときめき」を意味する「KILIG（キリグ）」に由来してる。 今回のモチーフである「サーカス」が持つ、幕が上がる前の期待や演目中の高揚、そして終演後の余韻――そのすべてを包み込む確かな「ときめき」を、光の空間構成で表現。LEDライトを駆使した華やかな演出は、階段を見上げる人々の足を止め、まさに心躍るような「KILIG」を感じさせる仕上がりとなった。	44	あり
10	学園祭お化け屋敷プロジェクト	2025/4/1－ 2025/11/4	蒼山会	芸術教養センター	森岡 厚次	学園祭の大人気企画である「おばけ屋敷」の企画、制作、運営ができるプロジェクトです。京都の地で「人はなぜ怖いものに惹かれるのか」「本当の恐怖とは何か」をグループワークで学び、企画の「軸」となるストーリーを作るところから始めます。蒼山会から補助金を受け、チラシ制作やPR動画を撮影・編集する広報チーム、世界観や設定を考案する脚本チーム、衣装・メイク担当、小道具・仕掛け作り担当、音・光の演出担当等に分かれて準備し本番はキャスト等も全員で取り組みます。	43	あり
11	芸教祭・瓜生山大作戦プロジェクト2025	2025/4/23－ 2025/9/24	蒼山会	芸術教養センター	森岡 厚次	芸術教養センターで前期期間に開講されている、初年次教育の成果発表展を9月12日から17日に『芸教祭』として実施するプロジェクト。各授業に足を運び、ヒアリングやリサーチを重ねて、アーカイブを行い各授業の魅力を探ります。マンデイプロジェクトや瓜生山ねぶた、栗田大燈呂PJ、南座看板制作PJ、フコクアトリウム空間プロデュースPJ平面・立体、学園祭お化け屋敷PJ、ことばのワークショップなど、それぞれのブースにて学内展示を行った。さらに、9月17日には瓜生山学園を学生自ら盛り上げることを目的に、前期授業の集大成を披露する中、瓜生山大作戦_夏祭りを企画運営し、学生達の交流の場作りを行った。	52	あり
12	守山市地域子育て支援拠点施設プロジェクト（壁画デザイン）	2025/6－ 2025/9	守山市	芸術教養センター	箭内 新一 由井 武人	守山市駅前商業施設に併設される地域子育て支援拠点施設のための壁画制作。誘導目的と親子が気軽に、安心に入場できる環境を整えることが壁画の目的となる。 守山市のマスコットでもあるホタル、名産であるメロン、琵琶湖を組み合わせたキャラクターを制作。ホタルをベースに羽がメロンの模様になっている「まもっこ」琵琶湖大橋から「ピワハシコウ」など6体のキャラクターをデザインした。 壁画全体のデザインは、守山市内をメロンに見立て、名所を背景としてクレヨンタッチでこどもが描いた落書き風の世界感にキャラクターたちが子供たちを迎えている風景のデザインとしている。壁紙にインジェット印刷の手法で絵の具ではできない表現が可能であり、壁紙の良質な仕上がりとなった。	4	なし
13	ホスピタルアートHAPii+プロジェクト2025 北野病院	2025/10/1－ 2026/3/31	公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	芸術教養センター	箭内 新一 由井 武人	医療従事者の方と学生たちとの意見交換会を数回実施。産科において様々な事情を持つ利用者がいること。単に出産がお祝いだけでは収まらないこともあり、デザイン案の方向性に多くのヒントを得た。 デザイン案の意見交換する中であまり具象性が強すぎず、弱すぎずの妙が大切であり、デザイン制作の考え方を「そっと、寄り添う」とした。祝う意味での「組紐」のデザインを取り入れ、抽象性のある線表現を中心としたさりげない装飾的デザインとしてエントランス、デイルーム・面会窓、分娩室前の廊下の施工へつなげた。壁画施工のみではなく、赤ちゃんの足形をスタンプするお祝いカードをデザインし、データ納品とした。病院主催のお披露目会を経てプロジェクトの完了となった。	31	あり

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
14	ホスピタルアートHAPii+プロジェクト2025 大阪急性期・総合医療センター	2025/10/1－ 2026/3/31	大阪急性期・総合医療センター	芸術教養センター	箭内 新一 由井 武人	処置室での治療への不安や無機質な入院医療空間の緩和のためのホスピタルアートが求められた。「安らぎのなかに、わくわくを。」デザイン制作の軸となった。モチーフは動物たちと妖精であり、動物は円の構成でデザインされ、併設されているプレイルームの妖精をキャラ化し、妖精が動物たちの体の一部を花に変えることで、安らぎとわくわくの要素を形象化している。処置室は、不安の緩和のため、天井に蓄光シートを組み込み、お花のシルエットが浮かび上がる。エントランスは円で構成された大樹がシンボルとなり誘導のサインの機能も果たし、病室の動物アイコンを含めると施工箇所は60箇所を超える。院内説明会を経て引き渡しとなり、施工は完了となった。	31	あり
15	万博ねぶたプロジェクト2025	2025/1/27－ 2025/5/1	学校法人瓜生山学園	芸術教養センター	森岡 厚次	2025年大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「EARTH MART」（テーマ事業プロデューサー：小山薫堂）において、京都芸術大学の有志学生が初年次教育で修得したねぶた技法を用いて「いのちのカート」を協働でつくるプロジェクト。 「いのちのカート」展示概要 展示場所：2025年大阪・関西万博「EARTH MART」パビリオン内 展示期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月） 制作：学校法人 瓜生山学園 京都芸術大学（有志学生による制作） 制作技法：ねぶた技法（和紙・針金・木組みを用いた構造）	37	なし
16	2025年度巨大壁画プロジェクト2025-26	2025/11/26－ 2026/3/12	蒼山会	芸術教養センター	秋山 みちか 河田 憲政 森岡 厚次	本学理事長の発案で始まり、自主企画団体「@PIECE」が生み出した巨大壁画プロジェクトが、今年度は芸術教養センター主催で始動。今春の完成を目指し、第3作目となる壁画制作に挑戦する意欲的な学生を募集。 本プロジェクトの舞台は望天館エントランス。巨大な平面作品の制作を通して空間全体をプロデュースし、芸大生ならではの自由なアイデアと豊かな表現力で多くの人を魅了する、本格的な制作活動にチャレンジできるプロジェクト。	36	なし
17	おおい町 SEE SEA PARK アトリウムにおける作品展示・イベントの開催プロジェクト	2026/2/1－ 2026/3/31	リライトおおい株式会社	芸術教養センター	丸井 栄二 藤部 恭代	福井県おおい町を代表する官民協同の商業施設SEE SEA PARKで学生が作品を展示することを通して、おおい町をARTを通じて若い世代の方々が町内外を問わず楽しく集う場としての活性化を目指した。学生は自らの作品の発表に加えて展覧会テーマ、広報、展示構成、記録資料作成、展覧会に関する経費の流れなど展示に関わる全般を学んだ。また、若い世代へのおおい町への認知・理解を重要視しており、学生ににもおおい町を知ってもらうために搬入と併せて1泊2日で展示イベントと地域での交流を実施した。	9	なし
18	阪神電気鉄道株式会社、阪急電鉄株式会社ビール瓶ラベルデザイン制作プロジェクト	2025/4/1－ 2025/7/31	阪急阪神ビルマネジメント	芸術教養センター	丸井 栄二	大阪梅田ツインタワーズ・サウス入居テナント「日本ビジネスシステムズ」が運営している食堂「Lucy's」で排出されるコーヒーカすをビールの風味付けで使用したアップサイクルビールのラベルデザイン。	30	あり
19	相続税相談告知を行う為のチラシ等制作プロジェクト	2025/11/25－ 2026/2/27	税理士法人京都経営ネットワーク	芸術教養センター	丸井 栄二	相続税相談を告知する為のチラシ・ポスターのデザイン制作を行った。6案を提示し、その内3案が採用され、納品した。	1	なし
					合計		475	

No	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 * 200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
----	------	----	------	--------	-----	----------------------------	--------------	------

<ウルトラファクトリー>

1	米山舞×ヤノベケンジ 「PROJECT ULTRA-W」	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	ヤノベケンジ、米山舞	アニメ界で独自の世界観を築く米山舞と、現代美術の第一線で活躍するヤノベケンジ。この2人のクリエイターが手がけるプロジェクト「PROJECT ULTRA-W（ウルトラ・ダブル）」では、ヤノベの大型作品制作を中心に、2025年10月から開催の個展「LUCA：THE LANDING」でのグッズ制作やオープニングイベントでのVtuber出演に携わった。また、米山舞による巨大パブリックアートの制作や、米山の新作アート作品の変形パネルやシルクスクリーン作品に携わるなど、参加した学生たちは、通常のプロジェクトの倍（ダブル）の経験を得られる機会となった。	31	あり
2	やなぎみわPROJECT	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	やなぎみわ	プロジェクト内容：美術作家でありながら演劇の分野にも活動の場を広げ、両領域を往還しながら創作を行うやなぎみわによるプロジェクト。今年度は、六甲ミーツアートでの舞台公演に向けた舞台美術の制作や、公演運営へのスタッフ参加に加え、2026年4月に中之島美術館で開催される展覧会作品の制作にも携わった。学生たちは制作の現場に関わるだけでなく、能舞台や美術館での展示をやなぎとともに鑑賞し、直接解説を受けることで、創作の思考面にも触れる貴重な機会を得た。	4	あり
3	ULTRA_Sandwich #21	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	名和 晃平	Sandwichは、彫刻家・名和晃平が2009年に京都・伏見で創設したクリエイティブ・プラットフォーム。現代アート、舞台芸術、建築に至るまで幅広い分野において、アーティストのビジョンを具現化し、京都から国内外へ発信している。本年度は、振付家・ダンサーのダミアン・ジャレと名和の協働によるパフォーマンスアート《Mirage》を筆頭に、国内外でのプロジェクトに向けた制作やリサーチを行った。また「眠れる創造性の開花」をテーマに、子どもの可能性を広げる学びの場を創出する「intoART」と協働で、保育園やACKでのキッズプログラムにてワークショップを実施した。	7	あり
4	明和電機UMEツアープロジェクト	2025.5-2025.7	—	ウルトラファクトリー	土佐 信道	「オタマトーン」や「SUSHI BEAT」など、ユニークなガジェットでアート＆パフォーマンスを展開する「明和電機」によるプロジェクト。今年の4月から8月にかけて、社長1人の全国ツアーを開催！ナンセンスマシーンを演奏し、設営や運搬も社長自ら担当。本プロジェクトでは装置やマスク作り、パフォーマンストレーニングも実施する舞台制作班と、ライブ運営、観客動員、物販などを実際に体験するマネジメント班に分かれ、春秋座での京都公演に関わった。春秋座の公演では、舞台でのパフォーマンスや広報など積極的に参画し、500名の観客動員を達成する結果となった。	23	あり
5	BYEDIT	2025.5-2026.2	—	ウルトラファクトリー	多田 智美、 竹内 厚	「編集」の力を使いながら、ウルトラファクトリーから新たなメディアを立ち上げるプロジェクト「BYEDIT」では、1年間編集会議をしながら、「メディアをつくる」「出来事をつくる」を実践している。加えて、ウルトラファクトリーの機関紙となる『THE ULTRA 18』の編集・制作を担当し、明和電機や参加学生へのインタビューを実施した。さらに、北加賀屋やCLUB METOROでのイベントにあわせた刊行物の制作やフリーペーパーの制作、ヤノベケンジ生誕60年記念イベントの開催にも携わった。	9	あり
6	BUYBYPRODUCTS プロジェクト	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	矢津 吉隆 （副産物産店）、 山田 毅（副産物産店）、 松本 尚子、 中村 紀章、 水迫 涼汰	アーティスト、建築家、デザイナーがディレクターとなり、ウルトラファクトリー内のBUYBYPRODUCTS Circulation Studioという拠点で活動するプロジェクト。主な活動は、大学内で不要になったモノや廃材を”副産物”と呼び、それらを回収し必要な人の手に届ける資材循環の仕組みを作っている。また、副産物を素材にしてアップサイクルプロダクトの開発や新しい素材の実験などを行っている。今年度は、学内資材循環のための「みどりの箱」の運用や、資材提供イベント「みどり市」の開催、ウェブサイトやSNSでの発信を行った。加えて、ホテルアンテルーム京都で使用するプロダクトの開発や、京都音博「資源がくるりプロジェクト」、「森、道、市場」での副産物活用ワークショップなども実施した。	17	あり
7	MILESTONES	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	細尾 真孝	元禄年間（1688年）に創業した西陣織の老舗「細尾」が所蔵する江戸時代からの手書き図案約2万点をデジタルアーカイブ化し、伝統素材を世界のラグジュアリーマーケットで戦う武器へと変換していくプロジェクト。「細尾」は西陣織による革新的なテキスタイルの開発に積極的に取り組んでおり、プロジェクトでは、帯図案のアーカイブを中心に、クリエイティブユニット「SPREAD」サポートのもと、図案に着色したアート作品を制作した。2026年3月にはHOSOO FLAGSHIP STOREにて、作品を掛け軸に仕立て、展示および茶会を実施した。	8	あり

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 * 200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
8	フクセイクラブ	2025.5-2026.3	—	ウルトラファクトリー	鳥居本 顕史	フクセイクラブは、京都市伏見区にあるシルクスクリーン制作工房「京都孔版」による、複製技術に関する様々なトライアルを行うプロジェクト。本年度は大学所蔵の、刷り師・谷中和生の資料をアーカイブ化し、それらを元に技法分析を試みると同時に、写真家のサポートのもと700点にも及ぶ資料の撮影に携わった。資料撮影用に、レーザー加工機や3Dプリンターなどを用いた、吸着壁を学生とともに製作した他、それらをまとめる梱包材を用途に合った素材と形状にリデザインする活動に携わった。	2	あり
					合計		101	

< 社会実装支援課 >

1	未来のえいでんアートプロジェクト	2025/4/1— 2026/3/31	叡山電鉄株式会社 京都府「京都未来人材育成プロジェクト」	社会実装支援課	河田 学 高橋 耕平 浦田 友博 石鍋 大輔 八木 良太 彦坂 敏昭 矢津 吉隆 白石 晃一 酒井 稚恵 山元 桂子	本プロジェクトでは、京都芸術大学の7学科（全10学科の半数超）から36名の学生が参加し、叡山電車各駅でそれぞれの専門領域を活かしたアート作品の展示に臨んだ。学生たちにとっては、ギャラリーを訪れるすでにアートに興味をもっている人たちだけではなく、地域で生活を送る一般の方々に向けて作品を制作し展示する、ということが一番のチャレンジであったと思うが、自分の作品だけではなく、展示場所（駅）の選定、その周辺のリサーチといったプロセスが地域の理解につながった。また教員からすると、学生たちの地域、沿線の理解はじつに新鮮で、若い世代が地域とかかわっていく意味を新たに発見することができた。	36	なし
					合計		36	

< 舞台芸術研究センター >

1	遊びから地域社会と舞台芸術をつなぐ「瓜生山サマーパーク」	2025/8	京都市 ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業補助金	舞台芸術研究センター	井出 亮	春秋座とその周辺を誰もが自由にあそべる公園に見立てた4日間限定のサマーパークを開催。地域の子育て世代を中心に、これまでに劇場を訪れたことがない方々へ向けて、劇場が持つ「ひろば」としての機能を文字通り実現し、舞台芸術を楽しみ親しむ機会、そして地域の方々と学生、舞台・劇場・大学関係者のコミュニケーションの場を生み出した。演劇作品『めにみえない みみにしたい』をはじめ、古典芸能の魅力に気軽に接することのできる「かたり、おどり」、小道具や衣装などさまざまな舞台で使われるグッズに触れることのできる「タッチ、ステージグッズ!」、本学こども芸術学科・プロダクトデザイン学科の学生の作品を展示する遊べるアトリエ「オープン!アトリエ」、大人も子供も楽しめるワークショップ、パフォーマンスを交えたミニ山登り「瓜生山パフォーマンスピクニック」、インクルーシブ遊具の設置、おえかき・えほんコーナー、学内・地域店舗との連携した特別メニューなども展開した。	1	なし
2	演劇を通じた地域社会との連携「松尾スズキ・リアルワークプロジェクト」	2025/4— 2026/11/14	京都市 ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業補助金	舞台芸術研究センター	中間 慶子 安藤 善隆 松尾スズキ	作家・演出家・俳優・大人計画主宰・Bunkamura顧問演出家である松尾スズキ教授が学科を越え全学から学生を選抜し、舞台芸術作品を考察する社会実装プロジェクト「松尾スズキ・リアルワークプロジェクト」を実施。2025年度は京都を舞台にした『悪霊～下女の恋～』を題材に戯曲分析と集中講義を行い、創作過程を公開授業として京都市民を京都芸術劇場春秋座へ招待し公開した。さらに特別講義の配信を11月に行い、松尾氏が創作の本質を語った。ふるさと納税による助成を背景に、舞台芸術に触れる機会を地域へ広くひらき、市民の理解と関心の醸成につなげた。	18	あり
					合計		19	

< 和太鼓教育センター >

1	第43回Cytoprotection研究会における和太鼓演奏	2025/2— 2025/5	第43回Cytoprotection研究会	和太鼓教育センター	高木 克美 野田 悟	京都駅ビルのイベント広場で毎年行われるゴールデンウィークの子供向けイベントにおいて、本学の和太鼓 恵が演奏を行った。	11	なし
---	--------------------------------	-------------------	-----------------------	-----------	---------------	--	----	----

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
2	伏見稲荷大社 本宮祭 和太鼓奉納演奏	2025/5/1－ 2025/7	伏見稲荷大社	和太鼓教育センター	高木 克美 野田 悟	伏見稲荷大社において年に一度執り行われる神事。稲荷大神のご分霊を祀る全国の崇敬者が総本宮に参拝し、日々の御神恩に感謝する大祭。その大祭の1つの奉納イベントとして本学のサークル 和太鼓 恵がワークショップを含め、1時間の奉納演奏を行った。	34	なし
3	特別養護老人ホーム 同和園 「秋祭り」	2025/10/1	社会福祉法人 同和園	和太鼓教育センター	高木 克美 野田 悟	2018年から始まり、5年ぶりに開催された京都競馬場にて行われる花火大会において、本学の和太鼓 恵がオープニング演奏を行った。	15	なし
					合計		60	

<アート・コミュニケーション研究センター>

主催事業

1	主催セミナー「対話型鑑賞 ファシリテーション講座 (AB) ※25名」	2025/7～ 2026/1	－	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	美術館や学校教育機関、ビジネスや医療分野の人材育成への活用など対話型鑑賞が広く普及し始めた一方で、実施者であるファシリテーターの技術を学べる場や機会の少なさという課題に対し、講義と実践を交えたセミナーをオンラインにて開講した。すべてオンラインでの実施、国内だけでなく海外居住者も参加受け入れをおこなった。プログラム運営をASP学生と協同し、学びの実践の場として、また社会人と学生の交流の場として運営を行った。	5	有
2	主催セミナー「ACOPgym (エーコップジム) ～大学生と学ぶ対話型鑑賞ファシリテーション講座OBOGプログラム」	2025/4～ 2026/3	－	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋 吉原 和音	上記主催講座の修了生を対象としたプログラム（ファシリテーション実践、レクチャー、美術館をフィールドにした鑑賞ツアーなど）を実施。	2	無
					合計		7	

受託事業

1	【企業】株式会社コパイロット (COPILOT Inc.) 研修	2025/7/19、 2026/2/27、 3/10、3/24	株式会社コパイロット (COPILOT Inc.)	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	ACOPを活用した対話型鑑賞およびコミュニケーションについての研修（対面1回・オンライン3回）および、研修後の打ち合わせ、プログラムのサービス化検討にかかる一連の業務を実施。	0	無
2	東京私立中学高等学校協会 研究会 美術	2026/2/14	東京私立中学高等学校協会 研究会	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	東京都の私立中学および高等学校協会の会員校に所属する教員に向けた対話型鑑賞に関する研修を実施。美術をはじめ、各教科における対話を用いた学びへの活用、生徒とのコミュニケーション課題への活用を想定しワークを交えた研修プログラムを行った。27名の多様な私学の教員が参加。対話型鑑賞をさらに学びたいという意見が受講後アンケートにて多数寄せられた。	0	無
3	手話通訳士 研修	2025/8/9	アーツカウンシル東京	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	東京都と公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京による、誰もが芸術文化を楽しめる共生社会の実現に向けた環境の整備の一環として、聴覚障害者が芸術文化にアクセスしやすい環境をつくるため、美術館や劇場等の芸術分野で手話通訳を担うことができる通訳技術の習得を目的とした研修プログラムにおいて美術作品の対話型鑑賞に関する研修を実施。16名の手話通訳士が参加。	0	無
4	ろうガイド育成研修	2025/10～ 2026/1	アーツカウンシル東京	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーパートナープログラムの一環として実施する「ろう者によるろうガイド養成プログラムのモデル開発」に係る講座のプログラム開発及び実施を行った。「ろう者によるろうナビゲーター入門プログラム」と題し、全3回6日間にわたり開講。受講生10名。	0	無
5	ろうガイド育成研修 25年度レポート執筆・アーカイブ冊子作成	2026/1～ 2026/3	アーツカウンシル東京	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	上記「ろう者によるろうナビゲーター入門プログラム」の実施レポートをACCリサーチアシスタントとして本学ASP学科3回生（当時）が担当。全3回の詳細な内容および受講生の様子の記録を実施。加えて、講師とアーツカウンシル事業担当課長との対談を実施。アーカイブ冊子（PDF）として発行、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーパートナーのWebページに掲載。研究員が編集協力も含め、冊子企画段階から事業連携を行った。	1	無

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
6	MASK オープンストレージ鑑賞ツアー／監修・実施	2025/10/26	おおさか創造千島財団	アート・コミュニケーション研究センター	吉原 和音	小学生、中学生以上を対象にした鑑賞プログラム（ツアー）を、センター監修のもと、アートプロデュース学科3回生が企画・運営・実施。1日3回、対象年齢区分を小学校低学年、高学年、中学生以上（大人含む）に分け、ヤノベケンジによる作品をはじめMASKに収蔵される作品の鑑賞を行った。	3	無
7	ACKキッズプログラム／対話型鑑賞ツアー鑑賞・実施	2025/11/14,15,16	Art Collaboration Kyoto 実行委員会事務局	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	アートフェアにおける教育普及プログラムの一環として、鑑賞ツアーの企画・監修および実施を行った。今年度から実施対象を中学生以上に変更。ASP学科3回生1名がプログラムの企画・実施サポートに加わり、センターの研究生としてACOPgym所属の社会人2名参加。プログラム企画段階から当日まで実施スタッフとして協働した。	6	有
8	京都市京セラ美術館 コレクション展関連ラーニングプログラム	2026/2/22	京都国立近代美術館 ラーニング部門	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	京都市京セラ美術館の実施する「“教える” から“学び合い” へ」をキーワードに「ラーニング・プログラム」における対話型鑑賞プログラムを 専門研究機関の知見を活かしたプログラムの設計・開発・実施を同館教育普及担当者と協業で行った。半年間にわたるスタッフ向けの研修会・助言指導の実施、プログラムに関する企画書・報告書の作成および2月22日に対話型鑑賞プログラム（全3回）を実施。	0	無
9	大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）コレクション展関連イベント／小学校対象対話型鑑賞	9/25,26	大阪府立江之子島文化芸術創造センター（指定管理団体 吉本興業株式会社）	アート・コミュニケーション研究センター	吉原 和音	大阪府20世紀美術コレクションの活用事業として、大阪市内の小学校を招待した鑑賞プログラムの監修と実施。 ※対象校・クラス内訳：大阪市立明治小学校4年生2クラス、大阪市立本田小学校3年生4クラス	0	無
					合計		10	

共同研究事業

1	基盤（B）21H03163 細胞の人為的改変に係る制度論と印象論	通年	京都大学 ips細胞研究所	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	先端科学医療に関する法整備は日進月歩の技術革新に追いついていないのが現状である。しかし、生命尊重の観点から鑑みても法整備は最重要課題と言える。その整備に向けて、一般人の細胞の人為的改変に関する意識をArtを切り口に考察していこうという試みに協力することになった。医療や先端科学を意識しないでArt作品に対話を通して親しむ姿から、人の意識の奥にある倫理観を探る手立てについてどのような作品からアプローチするのか考察していった。	0	無
2	若手（B）「地域在住高齢者への美術館における対話型アート鑑賞プログラムの構築と介入効果の検証」	2025/4-2026/3	旭川市立大学	アート・コミュニケーション研究センター	伊達 隆洋	美術館での対話型鑑賞が高齢者の心理社会的well-beingに与える具体的な影響を定量的・定性的に検証し、効果をもたらすメカニズムを解明することを目的とする。これにより、対話型鑑賞が高齢者支援の有効な手段となる可能性を探る。	0	無
					合計		0	

< 日本庭園・歴史遺産研究センター 日本庭園研究部門 >

1	名勝玄宮楽々園高橋架替工事監理委託業務	2025/9/27―2026/3/19	彦根市	京都芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター 日本庭園研究部門	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	本業務は滋賀県彦根市に所在する名勝玄宮楽々園内の高橋架替工事事業に伴う現場監理業務である（国庫補助事業）。文化財の指定を受けていることから、木造橋の保存修理に必要な専門分野の調査を実施し、施工業者との施工協議および現地指導、工事に使用する資材および出来高の確認立会等、整備工事に係る工事監理を行う。	0	なし
2	R7名勝玄宮楽々園水田土手修理	2025/8/25―2025/10/31	公益社団法人 彦根観光協会	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	本業務は名勝玄宮楽々園において、調査研究によって復元された水田土手の毀損箇所の修理を行い、庭園意匠の保全を図るものである。	0	なし
3	令和7年度大正寺庭園（重森氏庭園）実測図作成	2025/10/10―2026/3/27	龍興山 大正寺	同上	仲 隆裕 荻野 史枝	本業務は、龍興山大正寺内において重森三玲が作庭したと伝わる庭園を対象に実測調査を実施し、平面図を作成して記録保存を図る。また、庭園の評価書を作成し、北九州市と相談の上、国の登録文化財等を目指す。実測平面図の縮尺は50分 1 の精度とする。	0	なし

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
4	令和7年度京都府庁庭園植栽設計業務	2025/9/9— 2025/11/28	京都府（総務部府有資産活用課）	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	本業務は、京都府登録有形文化財である京都府庁旧本館の庭園について、眺望の確保及び景観向上を目的とする管理を行うための設計である。 設計業務では、府庁庭園の歴史的背景を踏まえたうえで樹木等の調査を行い、修景作業として高木枝下ろし剪定、軽剪定、刈込、除伐の計画を立てる。 また、年間を通して景観を維持するために、草本類の管理方針を決定し、設計書を作成する。	0	なし
5	特別史跡彦根城跡埋木舎庭園修理工事委託業務	2025/5/1— 2026/3/31	特別史跡彦根城跡埋木舎 当主 大久保治男 彦根市 観光文化戦略部文化財課	同上	仲 隆裕 荻野 史枝	本業務は「特別史跡彦根城跡歴史活き活き！等総合活用整備事業」の一環として、特別史跡彦根城跡内に位置する埋木舎の景観回復を目的に、庭園整備を行うものである。 対象地は前回の修理事業から30年以上を経過し、建物まわりに展開する庭園を彩る植栽の樹勢の衰え・繁茂・高木化、園路の不陸、地形の不明瞭化などの毀損がみられる。よって文献・資料等の指標資料をもとに不具合の要因の検証を行った上で、令和7年度は主に庭園景観の回復（修景整備）、加えて経年的に不陸が生じた園路修理、手水鉢の排水機能回復等のための修理を行う。	0	なし
6	令和7年度伊勢山皇大神宮内庭園修景監理委託業務	2025/6/1— 2025/9/30	横浜総鎮守伊勢山皇大神宮	同上	仲 隆裕 荻野 史枝	本業務は、横浜市に所在する伊勢山皇大神宮内の庭園エリアを対象に、明治以前、以後の樹木及び植栽の調査を実施し、枯れや腐朽菌進行による危険木や過度に成長した樹木を伐採・剪定する対象を選定し、整備指導を行い、眺望の確保及び景観向上を目的とする。また、庭園公開等の活用を積極的に実施するために、き損箇所の適切な修理手法等の検討を行う。修理指導を実施し、庭園意匠の保全を図りつつ適切な修理が実施されるよう監理を行う。ことから、文化財修理を専門としている当研究機所に依頼がきた。	0	なし
7	令和7年度御茶屋・松の下屋庭園植栽管理業務	2025/6/1— 2026/3/31	伏見稻荷大社	同上	仲 隆裕 荻野 史枝 徳村 高秀	伏見稻荷大社内の京都市指定名勝御茶屋・松の下屋庭園における植栽管理。主に庭園を構成する植栽を対象に調査を実施し、年間管理作業として、徒長した枝の剪定、地覆の草本類の除草が必要な対象を季節ごとに選定し、施工する。また、催し等の際は適宜茶庭の設えを整える。	12	なし
8	令和7年度日本万国博覧会記念公園日本庭園植栽等景観創出業務に係る修景管理技術指導及びクロマツ等の剪定指導業務	2025/6/1— 2026/3/31	阪神造園建設業協同組合	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	阪神造園建設業協同組合が大阪府より受注した「日本万国博覧会記念公園 日本庭園 植栽等景観創出業務」に関して、日本万国博覧会記念公園日本庭園において2回の修景管理技術指導及び3回のクロマツ、高木類、ツツジ類等の剪定指導を行う。	0	なし
9	特別史跡彦根城跡埋木舎庭園修理設計監理業務	2024/4/7— 2026/3/31	特別史跡彦根城跡埋木舎 当主 大久保治男 彦根市 観光文化戦略部文化財課	同上	仲 隆裕 荻野 史枝	本業務は特別史跡彦根城跡歴史活き活き！等総合活用整備事業の一環として、特別史跡彦根城跡内に位置する埋木舎の景観回復を目的に、庭園整備の設計監理を行うものである。対象地は前回の修理事業から30年以上を経過し、建物まわりに展開する庭園を彩る植栽の樹勢の衰え・繁茂・高木化、園路の不陸、地形の不明瞭化などの毀損が見られる。よって文献・資料等の指標資料をもとに不具合の要因の確認を行った上で、国内外から見学者が訪れている文化財であることから、公開・体験において安全を担保して継続するにあたり、主に庭園景観の回復（修景整備）、清掃、加えて経年的に不陸が生じた園路修理、手水鉢の機能回復等のための修理設計を行い、工事において技術指導ならびに監理を行う。	0	なし
10	彦根城博物館内庭園修景整備委託業務	2025/5/1— 2026/3/31	彦根市教育長 彦根城博物館管理課	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	彦根城博物館（表御殿）の庭園は発掘調査と古絵図を基に復元された庭園であり、名勝玄宮楽々園、名勝旧彦根藩松原下屋敷庭園とともに彦根を代表する大名庭園である。彦根城博物館（表御殿）の庭園の修景と適切な維持管理を図るため、主要樹木の剪定等および博物館作業員への技術指導等を行う。	0	なし
11	R7名勝玄宮楽々園植栽整備委託業務	2025/4/1— 2026/3/31	彦根市	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	彦根市は特別史跡彦根城跡内の彦根藩下屋敷名勝玄宮楽々園において庭園植栽景観の復元整備に取り組んでいる。本業務はうち主要景観植栽（特別管理樹木の松類）について復元的研究を行い、整備を実施するものである。 合わせて名勝庭園管理アドバイザーとして現場代理人を現場に派遣し、園内の日常管理行為を担っている常設作業員に対して名勝景観を日常的に保全する心構えと保存技術に係る講習や指導を実施する。	0	なし

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 *200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
12	令和7年度京都府庁庭園植栽修景監理業務	2025/4/1— 2026/3/31	京都府（総務部府有資産活用課）	同上	仲 隆裕 片石 高幸 荻野 史枝	本業務は京都府庁内庭園樹木の伐採・剪定及び除草を行うことにより、眺望の確保及び景観向上を目的とするものである。修景監理では、府庁の歴史的背景を踏まえたとえて、景観的に不要と判断した樹木等の整理や、高木化した植栽の修復剪定を行う業者に対し、監理機関として立会いを行って修景に係る解説や技術指導を行う。	0	なし
13	令和7年度空中茶室閑雲軒復元プロジェクト	2026/2/17— 2026/3/31	京都大学 成長戦略本部 未来課題探索共同研究部門	同上	仲 隆裕 木村 栄美 町田 香	本業務は、江戸時代に石清水八幡宮に所在した松花堂昭乗の茶室・閑雲軒の復元を目的としたプロジェクトである。復元の材料となる閑雲軒に関する資料調査や分析、模型作成、図面作成などを行う	0	なし
合計							12	

<日本庭園・歴史遺産研究センター 歴史遺産研究部門>

1	真田山旧陸軍墓地の墓石保全の研究	2025.4.1~2026.3.31	真田山陸軍墓地維持会	日本庭園・歴史遺産研究センター歴史遺産研究部門	伊達 仁美 関野 遊子	真田山旧陸軍墓地において、これまでに回収・保管していた墓石の破片に、洗浄および石質強化処理を施すものとする。石質強化処理が完了した破片については、順次、元の墓石との照合を行い、可能な限り復元作業を実施する。また、過去に薬剤による石質強化処理を施した墓石のうち、処理後10年を超過したものについては、現状を確認し、状態に応じて再処理を行うものとする。	6	なし
2	「醍醐寺所蔵 未指定文化財 保存修復プロジェクト」作業の一部委託	2025.7~2025.9	NPO法人 文化財保存支援機構	同上	大林 賢太郎	醍醐寺が所蔵する未指定文化財の保存修復作業の一部を、特定非営利活動法人 文化財保存支援機構の監督・作業指示に従い行う。	10	なし
3	知覧特攻平和会館所蔵紙資料修理補助	2026.1~2026.3	NPO法人 文化財保存支援機構	同上	大林 賢太郎	知覧特攻平和会館が収蔵する、遺書や手紙などの文書資料の修理作業を、特定非営利活動法人 文化財保存支援機構の監督・作業指示に従い行う。	4	なし
4	「膠着剤実験試料作成」作業委託	2026.1~2026.2	元興寺文化財研究所	同上	大林 賢太郎	膠着剤実験試料 30種の作成（膠着剤6種×紙5種）	1	なし
5	頼山陽書斎山紫水明處 障子の張り替え業務	2026.1~2026.2	一般財団法人 頼山陽旧跡保存会	同上	大林 賢太郎	頼山陽書斎山紫水明處 障子の張り替え業務（大8面・中4面・小3面）	2	なし
6	絵画の色材調査	2025.12~2026.3	株式会社 坂田墨珠堂	同上	大林 賢太郎 増渕 麻里耶	蛍光X線データ（45pt）/可視分光分析データ（5pt）/FT-IR分析データ（5pt） 各測定・解析・報告書作成を行う。	1	なし
7	旧真田山陸軍墓地（納骨堂）への骨壺等運搬作業の一部作業	2025.5~2025.6	元興寺文化財研究所	同上	伊達 仁美 関野 遊子	旧真田山陸軍墓地（大阪府天王寺区玉造）における納骨堂内、東側安置室のあ〜せ（壁面14棚）の下から4段に骨壺を安置する。	5	なし
8	「久多の里山文化活性化プロジェクト」の展示準備支援委託	2025.4~2026.3	久多自治振興会	同上	伊達 仁美 溝邊 悠介 関野 遊子	「久多の里山文化活性化プロジェクト」における、2025年秋に開催予定の展示準備支援を行う。また展示の開催に合わせて冊子「山里に息づく手仕事」を発行する。	7	なし
合計							36	

N o	テーマ名	期間	連携機関	学内関連機関	担当者	概要 * 200-250字を目安としてください	学生関与 (人数)	単位認定
--------	------	----	------	--------	-----	----------------------------	--------------	------

< 大学院・芸術環境専攻 >

1	安曇野市滞在制作事業	2025/4－ 2026/3	長野県安曇野市	芸術環境専攻超域制作学プログラム保科・大橋ラボ	保科 豊巳 大橋 文男	長野県安曇野市では東京藝術大学と本学と連携して大学院生の滞在制作事業（制作・展示場所の提供と制作費支援）を行っているが、本学では大学院生が現地の風土や歴史を調査の上で滞在制作を行い、それぞれの成果を公民館、美術館、市役所等の複数箇所に展示するだけでなく、ゼミの授業の一環として、安曇野市の中学、高校と協力して、生徒たちに院生がチューター役となって制作を支援する共同制作ワークショップもおこなっている。	11	なし
2	令和7年度市政20周年プロジェクト ジェクションマッピング映像制作	2025/5/12－ 2025/12/20	長野県安曇野市	芸術環境専攻（通学）	保科 豊巳 大橋 文男	安曇野市市政施行20周年記念式典に合わせ実施するプロジェクションマッピングの投影映像について、地元企業及び地域在住の学生と連携し制作を行った。 記念式典にて投影を行い、参加者から高い評価を得た。	0	なし
3	京都府亀岡市旧別院中学校 校舎利活用提案	2025/5/13－ 2026/2/13	亀岡市	芸術環境専攻（通学）	久慈 達也 松井 利夫	京都府亀岡市の旧別院中学校校舎の活用可能性を、プロジェクト型授業の一環として、芸術・デザインの視点から検討した。校舎を「資源循環と創造性育成」を軸とする社会教育施設へ再生する構想のもと、現地調査や地域の方々との対話を重ね、アクションリサーチを通して課題と可能性を整理した。さらに全国の廃校活用事例を調査し、空き校舎を核に創造的実践と地域の暮らしを結びつける指針として「亀岡別院」というエリアブランディング案を提案した。	22	あり
合計							33	

< 通信教育部 文化コンテンツ創造学科 >

1	神戸須磨サーモンパッケージデザインコンペ	2025/10－ 2026/3	すまうら水産有限責任事業組合	通信教育部文化コンテンツ創造学科	川合 健太 中山 晴奈 塩見 貴彦 荒川 慎一 はるお 岡本 正人 山本 いずみ （事務局）	2025年度よりスタートした文化コンテンツ創造学科では、学生のキャリアデザイン支援の一環として、兵庫県神戸市にあるすまうら水産の取り組み「神戸須磨サーモン」の新しいパッケージデザインを学生から募集しました。本コンペは通信教育部の学生から広く応募をいただき、airUコミュニティを通じたコースを超えた表現の共有にもつながりました。デザイン採用者には10万円、入賞者には海の幸セットが贈られました。	58	なし
合計							58	